

工事説明書

ガスビルトインコンロ[設置フリータイプ]

型 式 名

DG2012S DC2012S C2G12KS C2C12KS

工事を誤った場合に危害・損害の程度を、次のように区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

| | |
|------------|---|
| 警告 | この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。 |
| 注意 | この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |
| お願い | 使用者が安全に快適に使用していただくために理解していただきたい内容です。 |



禁止



必ず守る



分解禁止

設置される方へ(この「工事説明書」を設置前に必ずお読みください。)

- 周囲の壁が不燃材料以外で、トッププレートに貼付の防火性能評価シールに記載されている離隔距離を確保できない場合は、絶対に設置しないでください。どうしても設置しなければならない場合は、必ず別売の防熱板を取り付けてください。防熱板を取り付けなかった場合、火災のおそれがあります。仕上げの構造が確認できない場合は、必ず防熱板を取り付けてください。
- この機器は、単独設置タイプですのでオープンとの接続はできません。

必ず守る

警告 機器を安全にご使用いただくため、この工事説明書をよく読んでから、有資格者による指定された設置を行う。

必ず守る 建築基準法、当該地区の市・町・村の条例、消防法、ガス事業法、液化石油ガス法、「ガス機器の設置基準および実務指針」(日本ガス機器検査協会刊)に従う。

禁止 トッププレートに衝撃や荷重を加えない、上にのらない。トッププレートが変形し、異常過熱や火災の原因になります。

分解禁止 設置で必要なところ以外は絶対に改造・分解は行わない。一酸化炭素中毒のおそれがあります。また、火災の原因になるおそれがあります。

お願い

- 乾電池を抜かず、器具枠つまみを「開の状態」で放置しないでください。乾電池の消耗が早くなります。
- 乾電池を使用しているガス機器を大型ゴミなどで廃棄される場合は、必ず乾電池を取り外してください。そのままにしておきますと、思わぬ事故になることがあります。

- この工事説明書の記載内容から外れた設置が原因で生じた故障および損傷は、保証期間内であっても保証の対象とならないので注意してください。
- 設置が終わったら、この工事説明書に基づいて設置されていることを確認してください。
- 設置終了後、保証書(取扱説明書に記載)に必要な事項を記入してください。
- 取扱説明書(保証書付)は設置終了後、必ずお客さまに渡してください。
- 取扱説明書に従って、お客さまに機器の操作方法など、取り扱い説明をしてください。



ケE84-02

①

開こん

同こん部品・付属品の確認

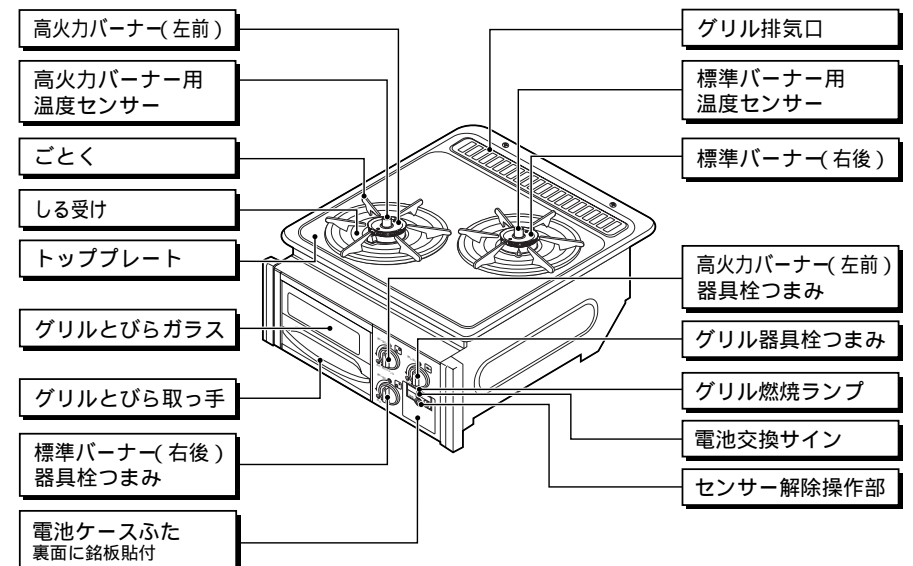
次の部品が同こんされています。不足のないことを確認してください。

| 部 品 名 | 形 状 | 個 数 | 部 品 名 | 形 状 | 個 数 |
|------------------------|-----|-----|------------------------------|-----|-----|
| バーナーキャップ <高火力バーナー用> | | 1 | しる受け | | 2 |
| バーナーキャップ <標準バーナー用> | | 1 | グリル焼網 (グリル付のみ) | | 1 |
| ごとく | | 2 | サイドモール(左) サイドモール(右) | | 各1 |
| 機器固定用ボルト | | 4 | 電池ケース (単1形アルカリ乾電池 2個付) | | 1 |
| 機器位置決め用ネジ | | 4 | 取扱説明書(保証書付) 工事説明書 | | 各1 |

機器のタイプによって同こん部品が変わります。

各部のなまえ

DG2012S・C2G12KSタイプ



DC2012S・C2C12KSタイプは、グリルなし仕様です。詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

②

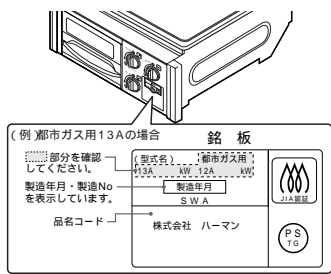
設置前の注意

設置する機器の確認

設置する機器が、ご使用になる目的、用途に適合していることを確認してください。

注意

- 銘板(電池ケースふた裏面に貼付)に表示してあるガスに適合している事を確認する。
火災・不完全燃焼・爆発点火のおそれや、機器が故障する原因にもなります。
- ガス種の異なる地域へ転居した場合は、部品交換や調整が必要なため注意する。
爆発や不完全燃焼の原因になります。
- この機器は調理以外の用途には使用できないため、用途を確認し、設置する。
火災・不完全燃焼・機器の故障の原因になります。

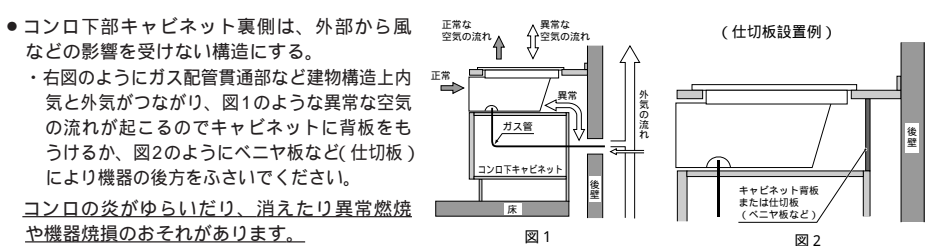


設置場所の確認

設置場所をお決めになるときは、次の事項をよく確認してから決めてください。

注意

- 設置するガス機器および同一室内に設置してある他のガス機器のガス消費量に対し、十分な換気設備がある場所に設置する。
他のガス機器と同時に使用した場合、不完全燃焼による一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 設置場所を決めるときは、お客様とよく相談し、安全な場所で、周囲に危険物・可燃物などがなく、火災の危険がない場所に設置する。
- 水平で丈夫な場所に設置し、不安定なときは補強工事を行う。
- 保守メンテナンススペースが確保されていることを確認する。
設置後、トラブルの原因になったり、点検・修理に支障をきたします。
- 引火性の危険物(ガソリン・灯油・ベンジン・接着剤など)や、業務用薬品(アンモニア、硫黄、塩素、エチレン化合物、酸類などの腐食性薬品)を周囲で保管したり、取り扱う場所には設置しない。
- ガス機器は、ガス工作物、電気工作物などの他の設備に悪影響を与えない位置に設置する。
- 棚の下など落下物の危険がある場所や樹脂製の照明器具、ガス湯沸器の下には設置しない。
火災のおそれや思いがけない事故の原因になります。
- この機器は家庭用のため、業務用として使用する場所に設置すると著しく機器の寿命が短くなります。



- 上記のほか設置場所について、次のことを守ってください。
・冷暖房装置の吹き出し口近くや、強い風が吹き込む場所に設置しない。

③

機器の設置

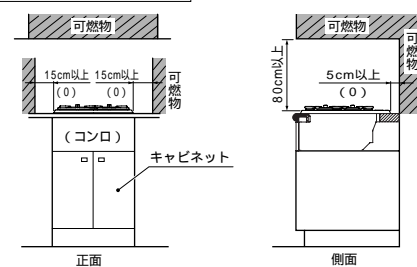
防火上の離隔距離

機器を設置する周囲の壁などが、防火上安全な場所かまたは、防火上有効な間隔を確保することができる場所に設置してください。

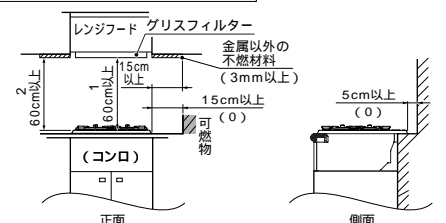
この機器は防火性能評価品です。

機器の周囲の可燃物(可燃材料、難燃材料または、準不燃材による仕上げをした建物の部分も含む)とは、下図の離隔距離を確保してください。

機器の周囲が可燃物の場合



レンジフードおよび不燃材の場合



()内は、周囲の壁が不燃材料で有効に仕上げた部分もしくは、防熱板を取り付けたときの寸法です。

- 1 レンジフードファン以外の場合は80cm以上。
- 2 不燃材料がない場合は80cm以上。

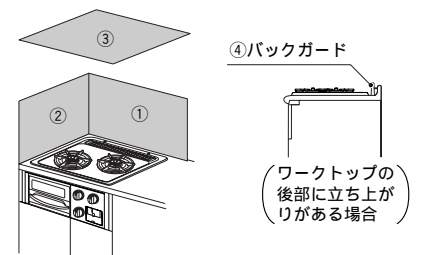
上記離隔距離がとれない場合は、必ず防熱板による防火措置を行ってください。

注意

- 防熱板は4種類用意しています。
 - 用途に適した防熱板を選んでいただき、正しく取り付けてください。
- 取り付け方法は別売の防熱板に同こんされている「取付説明書」をご覧ください。

| | コード番号 | 高さ(mm) | 幅(mm) |
|---|--------|--------|-------|
| ① | LP0105 | 350 | 600 |
| ② | LP0106 | 350 | 535 |
| ③ | LP0107 | 550 | 900 |
| ④ | DP0101 | 90 | 600 |

DP0101はワークトップ後部の立ち上がり用(ホーロー製0.6mm)



イラストはイメージ図です。
防熱板のお求めは、お買い上げの販売店または、弊社に連絡してください。

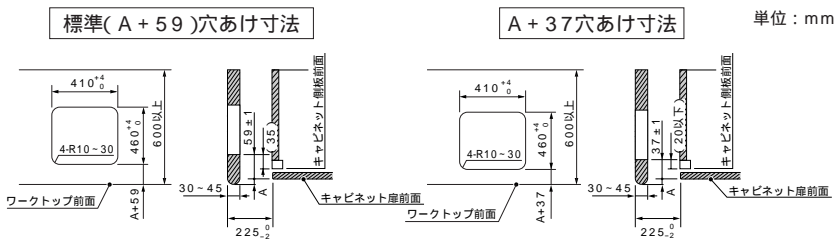
④

■ワークトップおよびキャビネットについて

- ワークトップ材は熱硬化性樹脂化粧板 (JIS K6903) または同等以上の材料としてください。
- ワークトップの表面がニス引きのものは変色しますので使用しないでください。
- 機器を組み込むために、下図の寸法穴に加工してください。
- 穴あけ寸法は、公差内になるように加工してください。公差外になると取り付けができなくなります。

△注意

- 45mmを超える厚いワークトップには設置しない。
- ワークトップの温度が上がり焼損のおそれがあります。

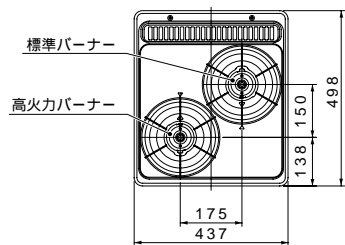


穴あけ寸法はA+59が標準です。ただし、設置フリータイプですのでワークトップ穴あけ寸法はA+59、(A+45) A+37のどちらでも設置できます。

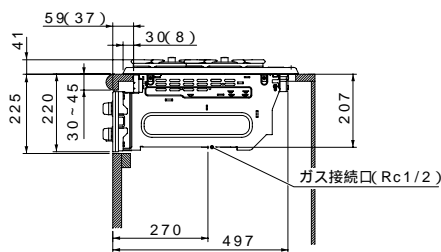
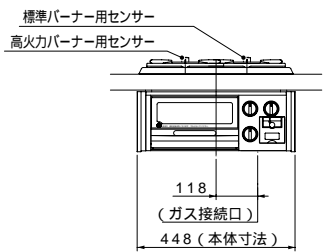
■機器の取り付け

[標準設置図・機器寸法図]

図はDG2012Sタイプです。その他のタイプについても、パネル部は異なりますが、設置寸法は同じです。《 》内の寸法はA+37設置寸法です。



単位：mm



⑤

[機器本体の取り付け]

| 作業手順 | 説明図 |
|--|-----|
| 1. 機器側ガス接続口のキャップの取りはずし ●機器底部右側のガス接続口に取り付けてあるキャップを取りはずしてください。 取りはずした部品は不要です。 | |
| 2. グリル水入れ皿の取りはずし(グリル付のみ) ●グリルとびらの取っ手をもち、少し持ち上げながら引き出し、取りはずしてください。 ・グリル水入れ皿、グリル焼網などがはずれた場合は、取扱説明書を参照して取り付けてください。 | |
| 3. 機器本体のはめ込み ●機器を持つ場合は、機器中央部の設置用取っ手を持って作業を行ってください。 ・絶対にガス配管やバーナーなどを持たないでください。ガス漏れや異常燃焼の原因になります。 ・はめ込み時はパネルなどにキズをつけないように注意してください。 ・機器周囲に取り付けてあるシールパッキンは取りはずさないでください。 | |
| 4. サイドモールの取り付け ●サイドモールをパネル両サイドの凸部(切り込み)にまっすぐに差し込み、奥にあたるまで差し込んでください。サイドモールは(左)右)がありますので、サイドモールを確認し、右図のとおり取り付けください。 | |
| 5. 機器本体の固定 ①機器前後の位置決めは、付属の機器位置決め用ネジ(黒色2本)を右図の刻印目印の位置に取り付け、機器前後の位置決めを行ってください。 ・A+59は後側2本、A+37は前側2本取り付けます。(A+45は前後各2本を取り付けます。) ②機器左右の位置決めは、機器本体側面のナット部に付属の機器固定用ボルト(4本)を取り付け、ワークトップに機器を固定してください。 ・機器前面とキャビネット前面とのおさまり具合を確認しながら位置を決めてください。 ・機器周囲に取り付けてあるシールパッキンがはずれたりしていないか確認してください。はずれたり、かみ込んだりしている場合は図の様にワークトップに密着するように確実に取り付けてください。 ・A+59、A+37設置時に余った機器位置決め用ネジ(黒色)の2本は、不要となります。 | |

⑥

[部品の取り付け]

| 作業手順 | 説明図 |
|--|-----|
| 1. グリル水入れ皿の取り付け(グリル付のみ) ●グリル水入れ皿を取り付けてください。 ●グリル水入れ皿を引き出したとき、グリルとびら取っ手など、はずれた場合は取扱説明書を参照して取り付けください。 | |
| 2. トッププレートの取り付け ①機器本体後部に止めてあるトッププレート固定用ネジ(2本)をはずしてください。(このネジは④で使用します。) ②トッププレートの後部を浮かしながら、機器本体前部ツメとトッププレート裏面ツメをひっかけ、トッププレート後部の穴と機器本体のネジ止め用の穴位置をあわせるように挿入してください。トッププレートを取り付ける前に、機器本体周囲のシールパッキンがはずれていないか確認してください。 ③機器本体に仮固定されているトッププレート固定板のネジをゆるめ、固定板を回転させ、トッププレートにひっかけてからネジを締め固定してください。トッププレート開口部のフチに合うように角度を調整してください。角度があっていないと、しる受けがトッププレート固定板にあたり、浮き上がります。 ④①ではずしたトッププレート固定用ネジでトッププレートを機器本体後部で固定してください。シールパッキンの出が左右均一であることを確認してください。 必ずトッププレート固定板を使用してください。使用しなかった場合、トッププレートの反り、浮き、変形の原因になります。 ネジをゆるめたり、締めつける際には手動ドライバーを使用してください。電動ドライバーではネジが利かなくなります。 □トッププレート固定板のひっかけ方 ：良い例 ×：悪い例 トッププレート開口部のフチ、トッププレート固定板、トッププレート開口部のフチ、トッププレート固定板 | |
| 3. しる受け・バーナーキャップ・ごとの取り付け ●しる受け・バーナーキャップ(下記参照) ごとくを正しく取り付けください。 詳細は取扱説明書を参照してください。 | |
| バーナーキャップの取り付けかた ●図のようにバーナーキャップの爪部が突起部の真上にくるように合わせて、バーナーキャップを取り付けてください。傾いたり、浮いたりしていないか確認してください。 △注意 ●バーナーキャップを正しく取り付けると、点火しなかったり炎が不均一になり、異常燃焼や部品が焼損、変形するおそれがあります。 | |

⑦

| 作業手順 | 説明図 |
|--|-----|
| 4. 乾電池の取り付け アルカリ乾電池(単1形：1.5V)を2個使用します。 ●乾電池の寿命は、およそ1年がめやすです。(付属の乾電池は工場出荷時に納められたもので、自然放電のため、寿命が短くなっている場合があります。) [電池ケースの取りはずしかた] ①電池ケースふた下部の凸部を指でひっかけて矢印の方向に開ける。 ②電池ケース前面にある上下のケース凸部をつまみ、電池ケースを取りはずす。 [乾電池の取り付けかた] ③乾電池(2個)の⊕⊖を確かめ、電池ケースに組み込む。 △注意 ●乾電池の⊕⊖方向は間違えないでください。点火できなくなります。 [電池ケースの取り付けかた] ④電池ケースを元の位置に戻す。 ⑤電池ケースふたを元に戻してください。 お願い ●電池ケースに水などの異物が入った場合は、ふき取ってきれいにしてください。電池機能不良の原因となります。 ●電池ケースふたは約135度(角度)程開きます。それ以上は無理に開かないでください。ふたが破損する原因となります。 | |

⑧

ガス接続・配管工事

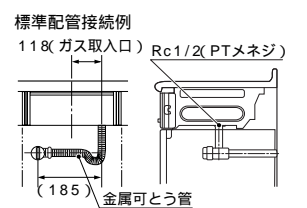
■ガス配管工事

機器を設置する場所にガス栓がない場合や、あっても適切でない(位置・口径)場合は、新設または交換をしてください。

- ガス接続方法
- ガス接続は金属管または金属とう管を使用してください。
 - ガス接続はRc1/2(PTメネジ)です。

工事後のガス漏れ確認

- ガス接続完了後は必ず漏えい検査をしてください。



試運転

- 取扱説明書の「点火・消火のしかた」に基づいて試運転を行ってください。
- 試運転終了後また、長期間使用しないときはガス栓を閉じ電池を抜いておいてください。